錦江町初のゲストハウスがオープンして１年。
空き家解決の糸口を探り、移住者増への期待も込められて
始まった取り組みは、まちと人をつなぐ拠点となる――。

特集

人に、暮らしに出会う旅。接点になる宿。

まちと人がつながる新拠点

観光や旅行といった「旅」に求める価値に変化が起きている。以前のように代表的な観光地を巡る旅のスタイルではなく、旅先での体験や出会い、地域独自の生活やその土地の日常を知る、「質」を重視したローカルツーリズムに価値を見出す人が増えている。そして旅先の拠点にもなる宿選びの候補として選ぶ人が増えているのがゲストハウスだ。プライベート性の高いホテルや旅館とは違い、初めて出会う宿泊者同士やスタッフ、地元の人たちなど人との出会いや交流、つながりを重視した共用スペースを設けているのが特徴。つまり共用リビングを宿泊者や利用者がシェアする宿といったイメージだ。年齢や職業、国籍を問わず各地から訪れた人たちの間に交流が生まれることで、さまざまな価値観が混ざり合い、そして何か想像を超えた楽しいことが始まる――。

そんな不思議な魅力と可能性を併せ持つゲストハウス第１号が錦江町にオープンしたのは昨年６月。町内に８００棟以上あるとされ、さらに増え続けると言われる空き家の活用がきっかけだった。解決の糸口を探っていた町と、起業を目指しその舞台を探していた若者との出会いから始まったゲストハウス。そのプロジェクトは単に空き家の活用という枠を超え、まちと人を深くつなぐ拠点となり始めている。

「場を開くことで人がつながる。そして想像もできない面白いことが始まる」と期待を寄せる錦江町ゲストハウスよろっでの代表・山中陽さんへのインタビューから、まちづくりのヒントを紐解いていく。

錦江湾をイメージした青と温かみのある外壁が目を引く。独特な「よろっで」ロゴはよろっでを訪れた大学生がデザインし設置まで手がけた。問い合せは 0994-27-4548 まで。

錦江町ゲストハウス**よろっで**

CAFE（カフェ）▶ 11:00-16:00
BAR（バー）▶ 18:00-22:30

カフェもバーも火曜と水曜が定休日。現在は「まん延防止等重点措置」適用のため 20 時までの時短営業中。

2019年4月

未来づくり専門員として着任した山中陽（あきら）さん㊧と井上聡佑郎（そうたろう）㊨さん。シャッターを開けて竹ほうきで 10 年分の掃除。ゲストハウスオープンへの一歩を踏み出した。

2019年6月

リノベーションに向けて始まった大掃除で 10 年ぶりに雨戸が外された。この日は 2 人が掃除イベントを企画。参加者を呼びかけ、30 人以上の人たちが集まった。

2019年7月～10月

理想のゲストハウスに向けて課題やアイデアを出し合う日々が続いた。設計図や模型を作り、自然と人がつながる間取りと動線を考えた。

2019年11月～12月

材料費を集めるためクラウドファンディング（CF）で資金を調達。周知のチャンスと捉え自分たちが描くゲストハウスの姿を語った。写真は CF 用の撮影会で集まった。

2020年1月～5月

目標の 140 万円を大きく上回り 246 人から 200 万円以上の力強い支援をもらった。そして始まった空き家改修。慣れない作業に悪戦苦闘するも理想の姿が見えてくる。

2020年6月

2020 年 6 月 5 日。「錦江町ゲストハウスよろっで」がオープンを迎えた。コロナ禍のためバーと宿泊は少し遅れて 6 月 20 日にスタート。10 年ぶりに明かりが灯った。